

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	世界経済論 (Global Economy)					担当教員	広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2036-0-33-083	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2436-0-33-022	専門科目	選択	2年次	3年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
世界経済の本質を見抜くための高度な思考力を育成するために、世界経済を多様な視点から学習する。第1に、世界経済を分析する重要なツールを学ぶ。第2に、近年および最新の世界経済の動向を国際政治の要因等も含め幅広く学習し討論する。第3に、世界経済の各エリアについて長期的視点および包括的視点から考察しながら討論する。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業						
③ 授業の進め方・指示事項						
広範に専門知識や情報を解説しながら、学生に独自で深く考え本質を見抜く高度な思考力を身につけてもらうため、頻繁に質問し意見を求め討論を行うので、積極的に発言すること。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
ミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済学						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
学習資料を毎回配布する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
山本和人・島谷一生編著(2023)『世界経済論-変容するグローバリゼーション』(第2版) ミネルヴァ書房						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
世界経済に関する歴史、理論、現状、未来、各エリアの緻密な分析を解説しながら、多様な現象の奥にある最重要な本質を見抜き、さらに独自の考えを持ち、世界に提案できるような高度な思考力が身につくような授業を継続して行きたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 世界経済を分析する重要なツールが理解できる。 (2) 近年および最新の世界経済の動向を理解できる。 (3) 世界経済の各エリアについて長期的視点・包括的視点から理解できる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	世界経済を分析する重要なツールの理解	世界経済を分析する重要ツールの理解に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	世界経済を分析する重要ツールの理解に関して、資料等に頼らず説明できる。	世界経済を分析する重要ツールの理解に関して、資料等を参照しながら説明できる。	世界経済を分析する重要ツールの理解に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	世界経済を分析する重要ツールの理解に関して、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。
(2)	近年・最新の世界経済の動向の理解	近年・最新の世界経済の動向について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	近年・最新の世界経済の動向について、資料等に頼らず説明できる。	近年・最新の世界経済の動向について、資料等を参照しながら説明できる。	近年・最新の世界経済の動向について、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	近年・最新の世界経済の動向について、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。
(3)	世界経済の各エリアについての理解	世界経済の各エリアに関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	世界経済の各エリアに関して、資料等に頼らず説明できる。	世界経済の各エリアに関して、資料等を参照しながら説明できる。	世界経済の各エリアに関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	世界経済の各エリアに関して、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	45%		30%		25%		100%	
(1) 世界経済の分析ツールに関する理解	15%		10%		10%		35%	
(2) 近年・最新の世界経済の動向に関する理解	15%		10%		10%		35%	
(3) 世界経済の各エリアについての理解	15%		10%		5%		30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	課題についてコメントを行い討論のベースとして紹介する。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	イントロダクション・グローバル資本主義とグローバリゼーション	グローバル資本主義とグローバリゼーションに関する考察課題						240分
2	世界経済を分析するツールⅠ（経済理論の多様性）	分析ツール（経済理論の多様性）の応用問題						240分
3	世界経済を分析するツールⅡ（歴史的特性）	分析ツール（歴史的特性）の応用問題						240分
4	世界経済を分析するツールⅢ（リーダーシップ分析）	分析ツール（リーダーシップ分析）の応用問題						240分
5	グローバリゼーションのメリットとデメリット	グローバリゼーションのメリットとデメリットに関する考察課題						240分
6	貿易・投資の世界的スケールでの展開	貿易・投資の世界的スケールでの展開に関する考察課題						240分
7	人材の世界的スケールでの移動	人材の世界的スケールでの移動に関する考察課題						240分
8	北米経済の分析	北米経済の分析に関する考察課題に関する考察課題						240分
9	東南アジア・南アジア・中央アジア経済の分析	東南アジア・南アジア・中央アジア経済の分析に関する考察課題						240分
10	中国経済・北東アジア経済の分析	中国経済・北東アジア経済の分析に関する考察課題						240分
11	西欧経済・中欧経済・南欧経済の分析	西欧経済・中欧経済・南欧経済の分析に関する考察課題						240分
12	北欧経済の分析	北欧経済の分析に関する考察課題						240分
13	東欧経済の分析	東欧経済の分析に関する考察課題						240分
14	中東経済・アフリカ経済の分析	中東経済・アフリカ経済の分析に関する考察課題						240分
15	まとめ	人類の総体的幸福につながる世界経済建設に関する考察課題						240分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型ALを採用する。授業内容に沿って、各自が独自に調査し、考察しながら課題を作成する過程で、現象に奥にある本質を見抜き、独創的な提案ができる高度な思考力が身につくような授業を志向する。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性